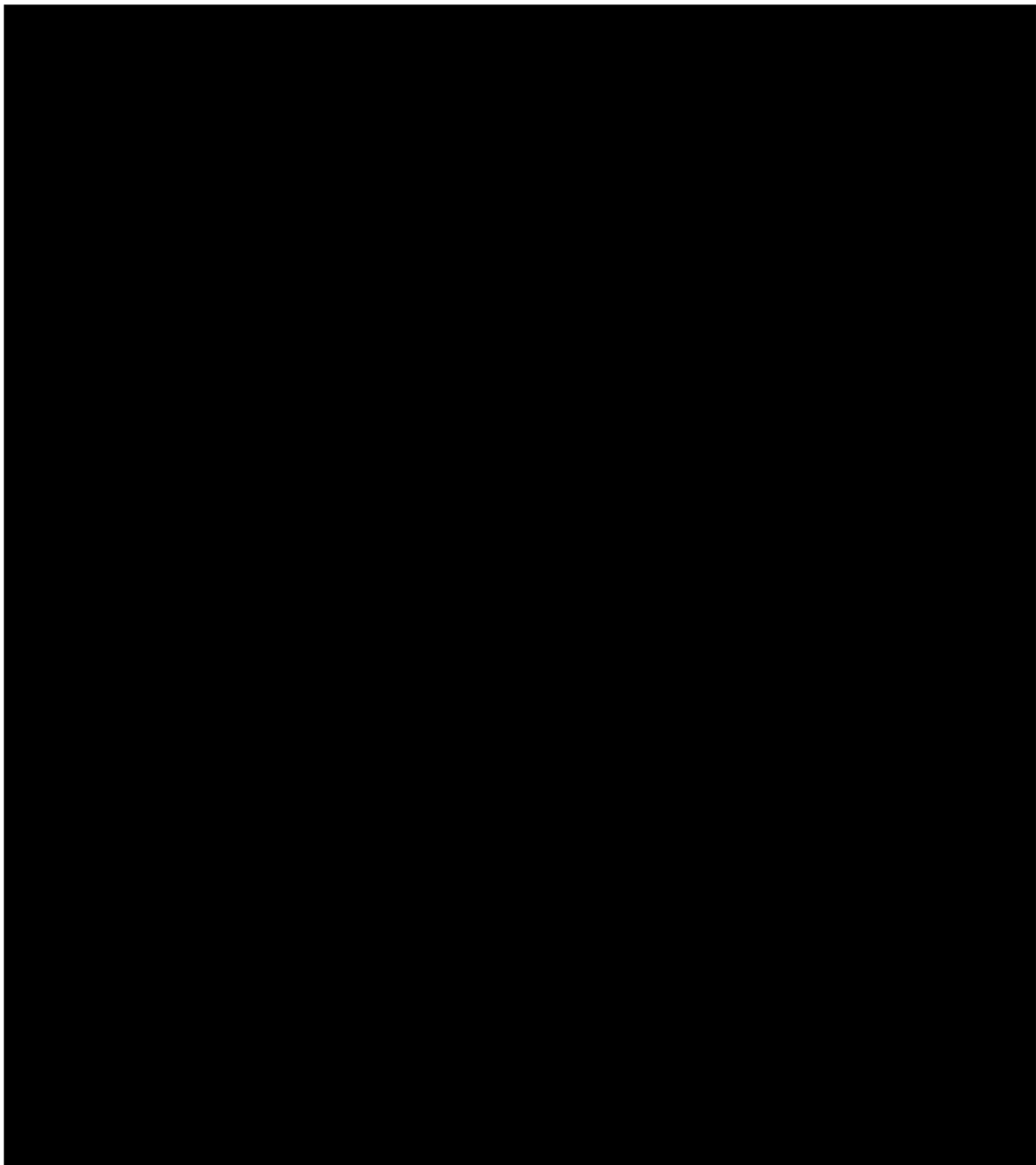


# 令和3年度末までの掘削状況について

## 目次

1. 令和3年度末までの掘削状況 .....1
2. 次期掘削地について .....2

1. 令和3年度末までの掘削状況 ※令和4年度は掘削を行っていない。



これまでの掘削地一覧（令和4年1月時点）

名称		完成年月	掘削地の面積 (ha)	
掘削済み (令和4年1月時点)	1	水辺植生再生実験地	H19.4	0.02
	2	湿性草地再生実験地	H20.11	1.4
	3	環境学習フィールド(1)	H22.5(北側)	2.8
			H23.1(南側)	
	4	環境学習フィールド(2)	H24.6	2.5
	5	水位変動型実験地	H23.3(左岸)	2.5
			H23.10(右岸)	
	6	湿潤環境形成実験地(1)	H26.1	9.7
	7	水位安定型実験地	H25.10	0.7
	8	湿潤環境形成実験地(2)	H25.11(南側)	8.2
			H26.9(北側)	
	9	環境学習フィールド(3)	H26.9	8.6
	10	ヨシ原再生実験地	H26.9	4.2
	11	大型鳥探餌休息環境実験地	H29.3	13.6
	12	環境学習フィールド(3)拡張部-1	H29.3	6.2
	13-1	環境学習フィールド(3)拡張部-2	H29.3(西側)	1.0
	13-2		H30.3	2.8
	14	湿潤環境形成実験地(3)	H30.3	12.2
	15	環境学習フィールド(4)	H30.3	4.0
	16	人為攪乱型実験地	H30.3	4.7
17	R1掘削地(1)	R02.3	3.0	
18	R1掘削地(2)	R02.3	0.5	
19	R2掘削地	R03.3	2.2	
20	R3掘削地	R04.3	2.2	
			計	93.0

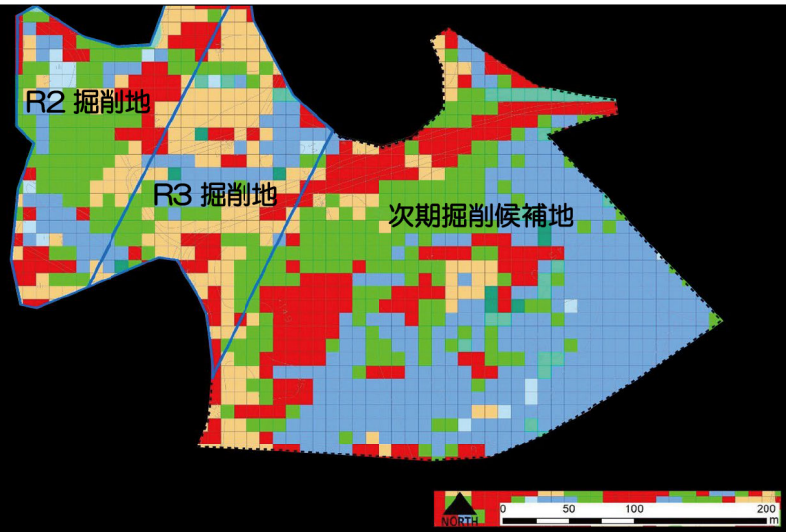
## 2. 次期掘削候補地について

### 次期掘削候補地の予定地の植生

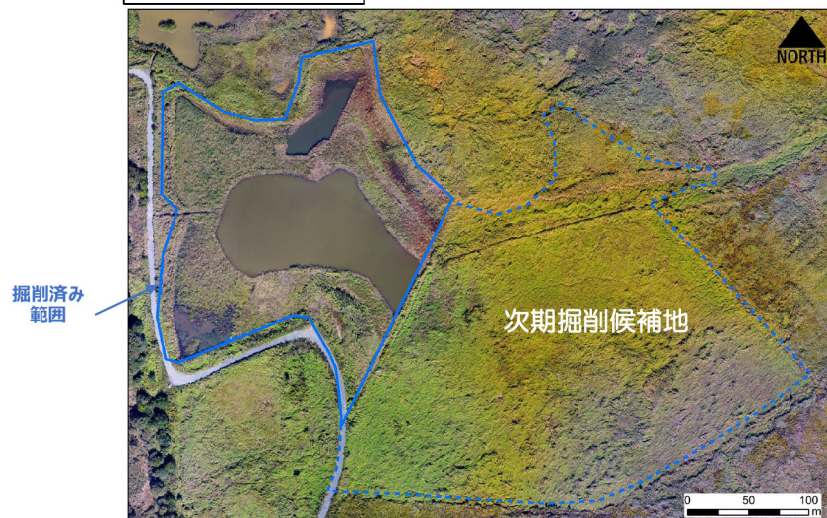
面積約 7.4 ha

- 次期掘削候補地は、現況を保全する地区の南側に位置する面積約 7.4ha の範囲である。西側については令和 2 年度に 2.2ha を、令和 3 年度に 2.2ha を掘削しており、次期掘削候補地と連結され、一体的な池となる予定である。
- 次期掘削候補地の予定地を見ると、セイタカアワダチソウが中央付近に繁茂し、ヨシ・オギ群落(ヨシ優占)やヨシ・カササグ群落が分布している。

### 掘削前の植生区分図



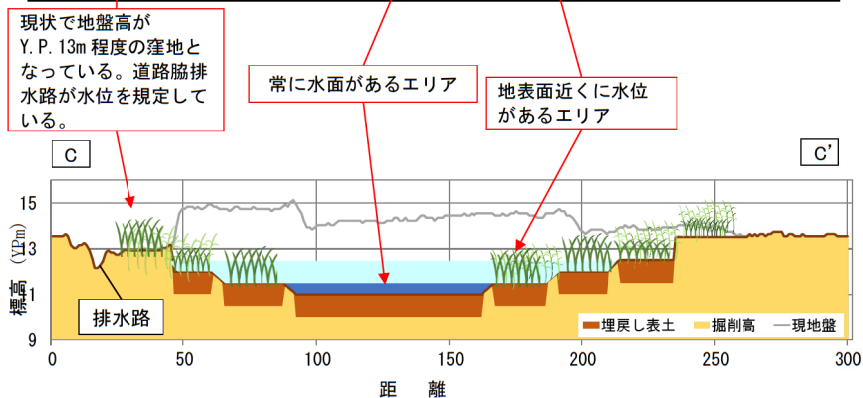
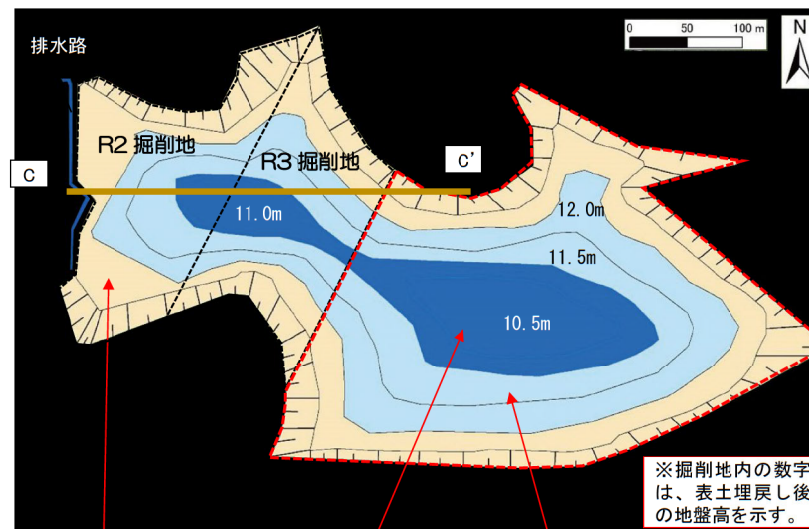
### 掘削後のオルソ画像



撮影日：R4.10.14

### 次期掘削候補地の掘削計画について

- 次期掘削候補地は R 2 掘削地、R 3 掘削地と連結され、一体的な池として整備する。
- 地表面付近に水位があり、例えばヨシ・スゲ類が生育する状態となる場所を広く取るとともに、水位低下時にも水面を保つことができるような深い部分も設けることとした。
- ヨシ・カササグ群落の表土を活用し、深く掘削して表土を撒きだして埋め戻すことで浅い水面を形成する。



緩やかな階段形状とする。各段は窪地状にやや深く掘削し、そこに表土を埋め戻す。  
(※掘削深度は、今後の水収支等の解析結果を踏まえて詳細を検討する。)

(出典：第 16 回渡良瀬遊水地湿地保全・再生モニタリング委員会資料)